

第21回(令和4年度)高校生「橋梁模型」作品発表会 審査講評

審査員長 東北学院大学工学部環境建設工学科 武田 三弘教授

ただいまご紹介にあずかりました、東北学院大学の武田と申します。

本日は大変お疲れ様でした。

作品発表会の審査にあたり、審査員の皆さまからいろいろなお意見をいただきました。

その内容をまとめながら、また次年度に参加していただける生徒さん、あるいは後輩皆さんのお役にたてばということでお聞きいただければ幸いです。

まず、今開催における高校生「橋梁模型」作品発表会の応募状況や審査過程を簡単に説明いたしますと、模型部門の応募作品が全部で23作品ありまして、うち実在橋が21作品、想像橋が2作品で、入選は実在橋の12作品になりました。

このほかにデジタル部門の応募も1作品もありましたが、データの提出が一次審査に間に合わなかったということで、残念ながら評価することはできませんでした。

具体的な評価につきましては、模型部門において毎年説明しておりますが、「ストラクチャル」は構造、「ビジュアル」は外観、「アイデア」の「3つの観点」を審査しており、どの模型作品に対しても平等に評価しております。

また、それぞれの観点については以下の2項目を基準に採点しております。

ストラクチャルは「構造の仕組みを理解し表現されているか」と「構造の再現性が高いか」の2項目。

ビジュアルは「質感が再現され外観の完成度が高いか」と「細部にわたり密実で精度が高いか」の2項目。

アイデアは「模型の見せ方の工夫度が高いか」と「模型全体の構成に工夫や新規性があるか」についての2項目になります。

なお、いずれかの一つだけの観点が優れていても、他の観点が伸び悩めば全体的な評価は低くなってまいりますので、この3つの観点を全て満たすような作品を頑張って作っていただければと思います。

今回入選した作品にはありませんでしたが、「想像橋」と惜しくも提出期限に間に合いませんでした「デジタル部門」に関しましてもそれぞれ審査の観点がございます。

想像橋に関しましては「イマジネーション」ということで、「コンセプトの親和性が高いか」、「構造体として合理性が高いか」の2項目になります。

デジタル部門に関しましては、題材が実在橋であれば「再現性やあり得るような形なのか」、想像橋ならば「合理性があるのか」に加え、「データの完成度」という2項目で評価しており、模型部門と比べても遜色のない評価を行いますので、ぜひデジタル部門にも応募いただければと思っております。

次回開催におきましても今回説明しました情報を生かしながら、後輩達などがより良い作品を製作して参加していただけますようお願いしております。

以上で審査講評を終わります。本日はお疲れ様でした。